midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

１２月号の１枚：動滑車２個を使って掛かり木を外す地球環境部

小原本陣の森、「本陣まつり」に参加

小原町の人々との交流もグングン深く、広まっている

江戸幕府開闢以来、小仏峠の麓：小原宿は、甲州・信越への出入り口として重要の地であった。

10年ほど前、「相模湖・嵐山の森」に次いで、当会はこの地を「小原本陣の森」と名付け、小原町内会了承の上、森林整備に入ることにした。ここは白亜紀（約１億５千万年～５千５百万年）の地殻変動で出来た土壌によって小仏砂礫層をなし、大久保沢を中心に急峻・複雑な山相を形成している。

11月3日文化の日小原本陣祭には、あいにくの飛び込み仕事で12時過ぎの到着となってしまった。「甲州古道：ごんどう坂」を急ぎ足で進み、ふと振り向くと見覚えのある顔に出会ったので声をかけた。Forest Nova OBの瀬戸さん（小笠原島の森林研究中）であった。小笠原島から横浜港まで船で24時間＋横浜から相模湖まで3時間。合計２７時間をかけて「緑のダムの仲間」に会いに来てくれた。どんなに嬉しいことか。

千葉からも農業に挑戦している同OBの植木さんが来ていた。苦労している様子だが、28年度には国が一次産業に大きな予算を付けているから（農水産に前年比122%、林業に119%）今が踏ん張り時。「当会も放ってはおかないよ。農林は一体だ。小原では”畑班“もあるよ」と言ったら笑顔を見せてくれた。同じくOB・OGの瀧澤さん、齋藤さん夫妻、森仲間が続々と集まって来てくれた。

「小原本陣の郷」の正門一等地にForest Novaがテントで陣取っていたので、祭各所に散らばっていた「緑のダムのリーダー達」に「はるか小笠原島から瀬戸さんが来たぞ」と連絡をしたら、続々と仲間たちが集まって夫々の活動情報交換の場となり、随分と賑やかなことになった。

小原町の人々との交流もグングン深く、広まっている。森・里に活気が出て来ている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動 2016.12

12月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり※今月は3日土曜日に行います
いずれも弁当持参。参加費：４００円
12月18日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

11月6日（第一日曜日）

NOVAの学生（桜井、五味）と竹林整備の場所に案内し状況を説明した。その後、東海道自然歩道を通り、嵐山に入る。次週12日、嵐山で開催予定のSSHで東海大高輪台高校生が行う予定の森林実習で間伐材の伐採に適した立木の選定を川田氏と二人で行った。適切な立木を選定した際、森林内に架り木のまま放置されているのを発見した。万一SSHの実習の際問題が生じると困るので、架り木処理に入るが、胸高直径が32㎝以上、樹高も28メートルはある大木が寄りかかっている樹木が重みで傾いでいる状態なので、枝は完璧に絡んでいるため簡単ではないことから小屋に戻り、チルホール、ナイロンスリング、滑車、ロープ（20m×2本）その他、チェンソー、楔、フェリングレバー等を用意し、NOVAの学生2人にも参加してもらい早速作業に入るが、数か所からチルホールで牽引するが、びくともせず。できるだけ高所に玉かけを施し、45度にナイロンスリングで滑車を固定し尚且つチルホールをナイロンスリングで大木に固定し引くが一向に動じない状態であった。尚且つ４ｔ以上の荷重が掛かったためかチルホールの安全ピンが切れ空回りを始めた。チルホールは浮き上がり危険な状態の中、引きをそのまま堅持し、対角側にロープを玉かけし男４名で揺らしながら引くことにした。イチ、ニ、イチ、ニと声を合わせ引くこと６分、樹木の先端部分がわずかに揺れ始めたので全力で引いたところワイヤーとチルホールがパチンと大きな音を立て、数メートル飛んだかと思うと木が大きな音を立てドサーと倒れた。案の定人はワイヤーとは反対方面にいたため怪我には会わず架り木の処理を終えた。枝を払い玉切りは後日ということで仕事を終えた。今回の作業を通じて山作業の危険性を見た。チルホールの表示例えば５トンの場合４トンあたりで安全ピンが切断すること
ナイロンスリングの意外な多様性。滑車を利用する場合、滑車の円径とワイヤーロープの外径は良く知った上で活用させること。２倍の力が掛かるのでロープが切断する危険がある。架り木にフェリングレバーは危険。ロープはアンカーフックに正しく台付ワイヤーを掛ける。架り木にしないことは前提であるが、架り木処理の器具の活用は説明書をよく読んで活用することが大事なことであるということを学ばせて頂いた。

小林　照夫（本会、理事）

[定例活動]知足の森

11月6日（第一日曜日）

知足の森は久しぶりに長期計画である広葉樹林での作業を行いました。新１年生が作業に慣れてきた分、言葉通り足元が不安になってきており、今一度基本に立ち返ろうと思っています。嵐山の森でもそれなりの太さ、高さの木を切っているので、これくらいの木なら、と油断が生まれないよう慎重に作業させました。そして、より効率的な作業のための「チームワーク」を意識させようと考えました。萌芽更新で広がってしまっている複数の枝の数を減らす、というのは主な作業です。人数もそれなりにいますので、２、３チームにわけ、まず互いのチームが互いに気を配り、上下で作業しないこと、また太めの枝を切る時は声を掛け合うことなどを確認しました。そして、切った枝をある程度の長さに切る生徒、枝を払う生徒、並べる生徒、全体を見て動く生徒と役割を決め、互いに集中が切れないよう声をかけあいました。（監視、という言葉かもしれません）強の作業の成果、は最終ページで生徒の感想を掲載させていただいたのでそちらでもご覧いただけます。日常生活ではあまり、こういった協力して何かを成し遂げる、ということがない彼らにとって、協力して完遂すること、その達成感、そして山主さんから感謝されるということ、実感として持ってもらえればと考えています。その後、畑に移動し、持ちきれないほどのサツマイモ、ヤーコンなどを収穫させていただきました。スーパーでは見たこともないような大きなサツマイモが掘れた際には大きな歓声があがっていました。ありがとうございました。

またお寺のすぐ下にかなり太く、中高生には手に負えない倒木が再び出てしまったので、来月、フォレストクラス、森林整備班のみなさまと打ち合わせながら対策を考えたいと思います。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

11月20日（第三日曜日）

今月の報告の編集はForest Nova☆望月が担当いたします。

まずは森林整備班。メンバー３人で午前中は花畑班の応援で畑の整備。力仕事だけは得意のメンバー、間伐材も使い、緩いスロープに段差をつけた畑を完成。午後からは、徒歩で、相模川対岸にある小原の野菜畑まで出向き、大根とヤーコンを収穫。戦利品は参加メンバーの手土産に。更に余った時間で、木工班の作業を応援し、再度の力仕事。１５：００からは、仁藤君・齊藤君の指導により、前回に引き

続きチェーンソーの手入れの仕方を勉強。手入れの重要性を再認識。（報告：川田晃）

生命の森宣言東京、今月は２名の参加となりました。先月に引き続き、スギの樹下に植栽されたトチノキのために、灌木の除伐を行って、作業を完了しました。来春、トチノキが葉を広げ、大きく育つことを祈念しています。

午後は、今春の降雪による被害木１本を伐倒整理しました。これから被害木の間伐に慎重に取り組んでまいります。（報告：菅原修）

中高生の地球環境部は中学生が定期試験で休みのため、望星高校の生徒４名、先生２名、高井戸中卒業生２名と宮村。いつものフィールドで間伐を行った。望星高校は初参加者もいたので、失敗しなそうなものを選んだはずだが、まさかの掛かり木。よく森に来ている高井戸中OBの高３、高２コンビも、まさか、という意味で大爆笑。しかし、今回は木廻しベルトという新兵器が。木に巻いて引っ張ると木がくるっと回って枝から外れるというもの。動滑車で引っ張る力を倍増すると、くるっと。１本目はあっさりと処理。このところ順調なチェーンソーで玉切りもし、あっという間に片付いてしまった。このまま、順調に本数を重ね、いよいよ最後という６本目で再び掛かり木、なかなかのしぶとさ。かかってしまった広葉樹を桜井先生のアドバイスで慎重に枝を減らし、こちらも無事に。課題は多いものの新しい道具でまたレベルアップできた１日でした。（報告：宮村連理）

そのお花畑班は、参加者は石原さん、薄井さん、岡田さん、瀧澤さん、丸茂。森林整備班の石井さん、川田晃さんも参加してくれた。天気は快晴、午前10時作業開始した。午前中の仕事は、球根などの植えてある花畑に有機肥料をすき込み薄井さん持参の球根（ユリ、スイセン、チューリップ）を捕植した。来春が楽しみだ。森林整備班の真骨頂、石井さん、川田晃さんの本格的杭打ち土留め工事、整地作業の後、北斜面側にカキナの種を捲く。だいぶ広くなったので捲き出がある。午後からは午後1時からは花畑班の5人で道路の一部、基地へのアプローチ部分の斜面地の大量の落葉をカブトムシ牧場用の囲いに集めた。また斜面地のヤブ状に繁茂している場所のボサ刈りをした。全員ケガ・事故もなく午後3時に作業を終了した。（報告：丸茂喬）

木材置場の屋根掛け制作が毎月続いているである。先月ようやく四隅に鳥居のように４柱と梁２本が組みあがった。今月は中央部の鳥居一組の制作である。

親方の長谷川さんが仕事で不参加だったので、作業内容を電話で確認しての作業であった。素人３人が鳩首を集め、柱のホゾを仕上げ、地上で横にしたまま、既に加工がすんでいる梁のホゾ穴に差し込んで嵌合を確認ところまで進んだ。

１２月は、梁丸太の形状に合わせ柱の受け部の加工をして柱を立て梁を乗せると、３本目の鳥居が建つ予定である。来年は、いよいよ屋根掛作業が始まることになる。（報告：川田浩）

今回の定例活動では、カブトムシ牧場の整備を行いました。三か所のカブトムシ牧場の内、拠点近くのカブトムシ牧場を整備し、その囲いや杭の補修を行いました。具体的な補修内容としては、ずれてしまっていた囲いの板を元の位置に戻す、緩んでいた杭を打ち直しました。また、カブトムシの幼虫の餌として栗やホオノキの落ち葉を入れ、木屑と混ぜました。実は、カブトムシの幼虫自体の生息は確認されず、来年への準備という形になりました。（フンや幼虫の姿が目視では確認されなったためそう判断しました）これは、しばらくの間放置していたのが原因だと思われます。これからは、小まめな整備を心がけようと思います。また、囲いの板のサイズが合わず、丸太や合わない板を複数使い代用しました。また、杭となる丸太の数も不足していました。嵐山入り口のカブトムシ牧場も、緑のダムの方々にある程度整備してもらったのですが、まだまだ修繕が必要で、来週の定例活動で直していく予定です。

カブトムシの成虫は、毎年発生しますがその幼虫は、野生では見る機会が少ないと思います。その姿を観察したり、持って帰って育ててもらうことで、生き物に対する理解や森を保全する意味を少しでも考えてもらうきっかけになれば良いと私は思ってます。

望月　健一（Forest Nova）

[報告１]
相模湖・若者の森づくりから
～ForesTo Class

ForesToClassは先月に引き続き小原の萩山にて間伐作業を行いました。

作業を行った林内を見渡してみると、だいぶ明るく見通しが良くなっていることが確認できます。今

後も毎月少しずつではありますが、安全に確実に作業を進めていきたいと思います。また、定例活動後には第2回チェーンソー講習会が開催され、講師を務めさせて頂きました。

今回は主に使用後のメンテナンスと目立てについてお話しました。目立てについては、チェーンソーを扱う上で最も基本となる所です。コツを掴むまでに少し時間がかかるかと思いますが、皆様と一緒に確認しながらやっていけたらと思います。講習会を通して様々な角度からの質問に自分の至らなさを感じる事が出来ましたので、これを機により一層学びを深めていきたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

ぜひ今後ともよろしくお願い致します。

齊藤　駿一（ForesTo Class）

[報告２]
相模湖・若者の森づくりから
～Forest Nova

今回、私は本陣祭の大名行列で腰元役として参加させていただきました。

フォレストノバからは腰元として参加したことのある人がいなかったので、着物やかつら、化粧のこ

となど分からないことばかりで不安に感じたこともありました。

しかしいざ小原に行ってみると、衣装合わせの後にコーヒーを飲みながらいろいろ話してもらったり、前日に泊まらせていただいたり、本陣祭というイベント以上の関わりがあって小原の人たちの優しさを感じることができました。

また、当日は他の役者さんたちも気さくですぐに仲良くなり、温かい雰囲気で本番を迎えることができました。ただ、思っていた以上に写真を撮られたので少し緊張してしまいました。

小原の人たちとより仲良くなるには、私たちフォレストノバがブースで参加するだけでなく、小原の人主体の企画に積極的に参加していくことも大切だと感じました。

服部　七星（Forest Nova）

[連載]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

「農耕をはじめた狩猟採集民
― サラワク州のプナン人コミュニティ訪問記 ―」（後編）

今回のツアーでもっとも印象に残ったのはプナン人たちの焼畑である。訪問したいずれの村でも家族総出による陸稲の種蒔の時期に当たっていた。二番目に訪れたB村は、トゥートー河上流の派流にあたるプアック川の沿いのコミュニティである。かれらが半定住という苦渋の選択を余儀なくされたのは10年ほど前だ。バラム河流域の森の中で遊動生活を送る数十名のプナン人グループは困窮しきっていたという。野生のサゴが収穫できる森も魚が住む清流も減っている、もうこれ以上、遊動の生活を続けるのはとても難しいと、NGOの活動家は2～3年かけて説得を重ねたという。

B村が焼畑農耕を始めたのは最近のことだ。技法や種などは近くのケラビット人から提供を受けたという。強い日差しを遮るものはなく、焼却灰に足をとられながらの作業はきつい労働だ。棒で突いて開けた穴の中にプナンの子供たちが十数粒の種を撒いていく。素人目ながらも粗放な農法だ。撒き方も雑で多くが穴の外に飛び出している。プナン人にとって伝統的な炭水化物源は森の中に生育するサゴから採れる澱粉だ。B村の人たちはいまでも白い米飯よりもサゴ澱粉の方をはるかに好む。ただ、サゴはもう収穫が難しい。町に行けばビニール袋で売られているサゴ澱粉を手に入れられるが、かれらにとって高嶺の花だ。代わりにいくらか値段が手ごろのキャッサバ澱粉をよく食べている。

森での狩猟採集の生活から定住を伴う農耕スタイルへの変遷はプナン人にとって、決して《近代化》を意味しない。むしろ生存するための苦肉の策と言ってもいいだろう。森はただ生活の場所だけを意味しているのではない。信仰や文化は森というミクロコスモスと分かちがたく存在している。B村の場合、周辺はすでに伐採企業二社の伐採施業区域となっている。幹線道路まで出れば、メランティなどの木材や合板を満載したトラックがひっきりなしに往来している。国営石油会社は、サバ州キマニスからサラワク州ビントゥルのLNGプラントを繋ぐ、全長500キロのガスパイプラインのプロジェクトを進めている。村近くでも自然林が根こそぎ伐採され、プナン人たちにとってさらなる脅威を与えている。2009年11月、現在の村長をしている男性の兄が森の中で忽然と姿を消した。原因ははっきりしないが、失踪の背景には、いまなお狩猟採集民の周縁化を強いる開発圧力の巨大な存在が垣間見えるようだ。

日本はサラワク産合板の最大の輸入国である。サラワクから海外に輸出される合板の55%を受け入れている。供給先のほとんどは巨大な建設・住宅産業である。2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックの主会場となる新国立競技場の建設にサラワク産合板が使用される可能性が高いという。事業主体の組織が木材の調達は、海外から違法材が入り込むリスクが高いと批判されているグリーン購入法に沿っていればいいという基準で設計・施工主体の公募を行なったためである。《発展》とか《開発》が置き去りにするものは測り知れなく膨大だと、10日間のプナン人と生活を共にしながら痛感した次第である。

原田　公（本会、理事
麻布大学生命・環境科学部）

[報告３]
相模湖・若者の森づくりから
～地球環境部

今回は１１月の知足の森定例活動に参加した中学生の感想をご紹介します。

森に入っていくとこれまで作業してきたところが前に来た時よりも青々としていました。作業の結果がよいととても気持ちのいいものです。そういえば後輩たちの初めての作業もここだったなと思いながら作業を始めました。知足の森での作業は嵐山の作業よりもチームプレーが大切です。１人が余分な気を切り、二人がその木の枝を落としきれいに並べる。この連携が上手にいかないと効率よく進められません。自分は午前は１人での作業だったので、午後は１年生にまじって作業をしました。みんなの動きが思っていたよりよかったので少し驚きましたが、うだうだやっている部員を発見し、よし、と気合いを入れ先輩としての仕事を午後めいっぱいしました。今回の作業ではチームプレーの練習ができました。この作業を通して、これからにつなげていきたいと思います。（中学２年生男子）

この生徒はひと一倍責任感があり、１年生によく声をかけています。ひたむきに作業することもでき、夏休み明けより部長として地球環境部をまとめる役割をになっています。今後の活躍に期待したいと思います。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[事務局より]
環境省
第４回グッドライフアワード
環境大臣賞優秀賞を受賞

先月からお知らせ、お願いしておりました同コンテストの国民投票をふまえた審査の結果、最優秀賞は逃したものの、環境大臣賞優秀賞を受賞いたしました。日頃より、ご支援いただいているみなさまのおかげで、このような大きなタイトルを受賞することができました。この場をかりてお礼申し上げます。表彰式は１２月１０日土曜日に東京駅近くのベルサール八重洲にて行われます。本会からは代表理事の石村と副代表理事の宮村が参加、受賞者プレゼンテーションを行う予定となっております。式の様子は来月号にてご報告いたします。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所